

2020年度第2四半期決算説明会における主な質疑応答

※ 説明会での質疑応答をそのまま書き起こしたのではなく、簡潔にまとめております。

【各事業に関するご質問】

<バス事業に関して>(決算説明会資料P6、P8参照)

Q バス事業はいつ黒字化する見込みか、また黒字化へ向けた対応策を教えてください。

A まずは需給調整をしっかりと行う。また、当社グループのバス車両は比較的新しい車両が多いので、新車の導入を抑えるようにし、併せて従来のバス車両の整備方法を見直し、メンテナンスの効率化を図る。もう一つは、適正な運賃の在り方を模索することによって、黒字化を目指したいと考えている。数年かけてということではなく、できるだけ早急に取り組みたいと考えている。

Q 貸切バスの減収率は、バス事業の中でも大きいのか教えてください。また貸切バスは、インバウンド需要が戻ってこないと感じていると思うが、どのように考えているのか教えてください。

A 減収率としては貸切バスの減収率は圧倒的に大きい。しかし、当社の貸切バスは、インバウンド需要をあまり取り込んでおらず、国内の団体旅行客がほとんどであるため、国内需要がある程度戻れば、一定程度回復できるのではないかと考えている。

<賃貸事業に関して>(決算説明会資料P9参照)

Q 賃貸事業の状況について教えてください。

A 当社の賃貸事業は、大きく分けてオフィスビルと商業施設がある。オフィスビルについては、コロナ禍でもほとんど空室がない状態で稼働できていた。商業施設については、緊急事態宣言時に一時休業などもあったが、足元では比較的回復してきている。

<福ビル街区建替プロジェクトについて>(決算説明会資料P30参照)

Q 福岡のオフィスビルの需要と、新福ビルのテナントの引き合いについて教えてください。

A 福岡のオフィスビルの空室率は低い水準で推移している。当社所有ビルも、ほぼ満室状態が続いている。新福ビルは計画変更により、日本でも最先端の感染症対応が進んだビルになる。東京から福岡への機能移転や、アジアに近いといった地理的優位性もあり、福岡のオフィス需要は十分にあると考えている。

<福岡空港特定運営事業等について>(決算説明会資料P35 参照)

Q 公共施設等運営権対価の国土交通省との交渉状況と黒字化への対策について教えてください。

A 現在、福岡国際空港(株)が国土交通省と公共施設等運営権対価の取り扱いについて、さまざまな協議を行っているとしている。黒字化へ向けた対策としては、事業性を高めるため設備投資を簡素化すること、設備投資の時期を若干後ろ倒しにすることや運営の一層の効率化を図り経費削減を行うとしている。

以上